

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏 名 中川 泰伸

論 文 題 目

Cross-cultural translation, adaptation and validation of a Japanese version of the functional index for hand osteoarthritis (J-FIHOA)

(手指変形性関節症患者に対して用いられる疾患特異的患者立脚型評価票“Functional Index for Hand Osteoarthritis”の日本語版作成及び妥当性の検証)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

亀井 讓 


名古屋大学教授

委員

日比 実晴 

名古屋大学教授

委員

濱嶋 信之 

名古屋大学教授

指導教授

平 田 仁 

論文審査の結果の要旨





今回、手指変形性関節症 (hand OA) 患者に特異的な手指機能障害の評価に用いられる患者立脚型評価票 Functional index for hand osteoarthritis (FIHOA) の日本語版が作成された。翻訳に際しては専門委員会を構成し、forward/backward translation のプロセスを経て、原版との同等性が評価された。国内 17 の施設で hand OA 患者を登録し、日本語版 FIHOA の妥当性を検証するため structural validity、internal consistency、construct validity、reproducibility、responsiveness が示された。これらの結果、日本語版 FIHOA は手指機能障害を十分に反映する評価票であることが示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. FIHOA は 1995 年にフランス語版、英語版の妥当性が示され、その後多くの hand OA 研究で使用されている。欧米圏のみならずアラビア語、ペルシア語など現在 17 の言語版が存在している。東アジア圏では、日本語版の他に、韓国語版で妥当性検証が行われている。
2. 日本は非英語圏であることに加え、欧米とは異なる東アジアの文化の中で生活をしている。異なる言語、文化間での患者立脚型評価票の翻訳に際しては、様々な面で原版と翻訳版の同等性を考慮する必要がある、その方法論についてはいくつかのガイドラインが存在する。今回用いられた forward/backward translation 法は日本語翻訳後にあらためて英語に翻訳しなおし、原版との違いを評価する方法である。これにより item equivalence、semantic equivalence などの同等性を検証することができる。本研究では行なわれなかったが、文化の違いを考慮し、質問項目自体が変更されることがある (cultural adaptation)。
3. 単回の forward/backward translation を実施し、原版との違いを許容した翻訳版を作成することがある。本研究では過去の hand OA 研究の知見との比較や多国間の研究成果の統合を容易とすることを目的として、日本語版 FIHOA が原版と同程度の信頼性や妥当性をもつよう (measurement equivalence)、複数回の forward/backward translation を実施した。

以上の理由により、本研究は博士 (医学) の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	中川泰伸
試験担当者	主査	亀井 讓 	副査 ₁	日比 英晴 
	副査 ₂	濱嶋 信 	指導教授	平 田 仁 
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他の言語版について 2. 異なる言語、文化間で主観的評価票の翻訳を行う方法論について 3. 複数回のforward/backward translationを行った意義について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、手の外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				